

生産・流通履歴  
公開システム

# 14日まで運用試験

米子の消費者の反応など調査  
東亜青果



運用試験で店頭に並べられた県内産農産物  
米子市車尾三丁目のマルイ車尾店

地場農産物の生産・流通履歴を一括管理し、消費者に伝える情報管理システムの運用試験が一日から、米子市内のスーパーなどで始まった。QRコード(二次元コード)付きのラベルで生産者情報などを確認できるほか、市場への入荷や店頭での販売日時の問い合わせに対応する。試験期間は十四日までで、消費者の反応などを調査する。

試験は、東亜青果(米子市米原九丁目、秦野一憲社長)が生産者や同市内の四つのスーパーなどと連携し実施。国が検討している農産物の適正規範に沿って生産、流通された青果物の情報をコンピュータで管理し、消費者に情報の一部を公開する。試験対象として店頭に並ぶのは白ネギやホウレンソウ、イチゴなど県内農家十戸から持ち込まれた青果物。ラベルにはQRコードのほか、市場入荷日や識別のためのID番号などが記されている。県消費者協会の協力で消費者の反応などを探るほか、試験終了後に生産者などによる協議会を設

け、システムの課題などを検討する。東亜青果の牛込淳彦副社長は「消費者の反応や生産者への負担などを考慮しながら、持続可能なシステムかどうかを検証したい」と話している。